

～ワシントン軍縮会議～

ちーば 1FG8103

2019/09/12

1

- 1、ワシントン軍縮会議とは
- 2、ワシントン軍縮会議で決定した条約内容
- 3、ワシントン軍縮会議条約の影響

1、ワシントン軍縮会議とは

【期間】

1921年11月11日～1922年2月6日

【場所】

アメリカのワシントンD.C.

【概要】

第一次世界大戦後、戦勝国となった5ヶ国の海軍は建艦競争を抑制するために、厳しい制限を加えることにし、それぞれが保有する主力艦の数と排気量の合計を制限した。

2、ワシントン軍縮会議で決定した条約の内容

条約は建造中の艦船を全て廃艦とした上で、

- ・米英:日:仏伊の保有艦の総排水量比率を5:3:1.75と定めた。

* 合計排水量は(米英)50万トン、(日)30万トン、(仏伊)17万5000トンである。

- ・米:英:日:仏:伊の戦艦の保有比率を5:5:3:1.67:1.67と定めた。

181 ワシントン海軍軍縮条約

新詳

p.275



p.167

一九二二年調印

第二章 本条約実施ニ関スル規則及用語ノ定義

第三節 主力艦ハ千九百二十一年十一月十二日ヨリ十年間ハ之ヲ起工スルコトヲ得ス

第四節 定義

主力艦 主力艦トハ：基準排水量一万噸（一万六千「メートル」式噸）ヲ超ユル軍艦又ハ口径八吋（二百三「ミリメートル」）ヲ超ユル砲ヲ装備スル軍艦ニシテ航空母艦ニ非サルモノヲ謂フ

航空母艦 航空母艦トハ特ニ且専ラ航空機ヲ搭載スル目的ヲ以テ設計シタル基準排水量一万噸（一万六千「メートル」式噸）ヲ超ユル軍艦ヲ謂フ

第三章 雑則 第二十三条

本条約ハ千九百三十六年十二月三十一日迄効力ヲ有ス

〔日本外交文書〕

語注

①主力艦 戦艦・巡洋戦艦

②十年間

一九二二年まで

③起工

建造

④航空母艦

艦上に

航空機の発着する構造をもつ軍艦 ⑤千九百三十六年十二月三十一日迄効力ヲ有ス この日に、ワシントン・ロンドン両海軍縮小条約は失効

解説 英・米・日・仏・伊五カ国の条約。

主力艦と航空母艦の保有量を制限することを定めた。

3、ワシントン軍縮会議条約の影響

この条約の下で排水量を維持しながら能力を上げようとした結果、各国で近代的で強力な艦艇が造られた。

また、この条約は主力艦における規制で各国は補助艦の強化を進めた。

出典 Wikipedia ワシントン海軍軍縮条約
浜島書店 新詳日本史